

## 素案に対する意見一覧

資料 2-2

番号	ページ	意見	回答
1	2	「まちづくりの方個性」→「まちづくりの方向性」の誤りではないか。	誤字のため、ご指摘のとおり修正します。
2	6	目指す区のすがたの3つ目について、「行き交う人びとが」は「人々が行き交い」の方がよいのではないか。	基本方針については、前年度の自治協議会においても意見照会させていただき、修正及び報告させていただいておりますので、素案のとおり表現とさせていただきたいと考えております。
3	6	目指す区のすがたの4つ目について、「地域の宝に気づき、守り」は「地域の宝を磨き未来へつなぐ」の方がよいのではないか。	本表現は、南区は多くの魅力があるものの、区民も含めて気づいていない人が多いという意見を踏まえ、まずは私たち自身がそれを気づき、守っていくことから始めたいという意味が込められています。 また、基本方針については、前年度の自治協議会においても意見照会させていただき、修正及び報告させていただいておりますので、素案のとおり表現とさせていただきたいと考えております。
4	7	歴史の項目における「近世」において、「洪水の常襲地帯」とあるが、洪水被害の例を具体的に記載してはどうか。	洪水被害について文言を追加します。
5	9	人口の流入と流出の対比が知りたいので、表またはグラフを記載してはどうか。	社会動態に関するグラフを追加します。
6	10	「西洋なしのル レクチエをはじめとして」→「西洋なしのル レクチエをはじめとして梨や桃など」がよいのではないか。	南区で栽培されている果物は梨、桃のほか、ブドウやイチゴなど多岐にわたります。その中の代表として西洋梨のル レクチエを例として挙げ、他のものを「魅力的な果物」としてくくっているものです。
7	11	「三条市方面へは路線バスが運行され」とあるが、現状では運行されていないため修正が必要。	白根中心部から三条市方面への路線バスは運行しておりませんが、新飯田地域からは現在も運行していることから、このような記載としております。なお、「燕市」が記載漏れだったため、追記します。
8	14,15	地域防災確立のための具体的な表現として「南区防災会議」等の記載が必要と考えます。南区防災会議＝行政＋自主防災会＋防災士会 活動内容：避難所運営要領の作成など	ご提案いただきました「南区防災会議」については、取り組みの1つ目の「地域防災体制の確立」の中で、自主防災会や防災士会にご意見を伺いながら必要性を検討してまいります。

番号	ページ	意見	回答
9	15	防災の現状と課題の中で、「南区は、信濃川と中ノ口川に沿って多くの集落が形成」とあるが、「集落」は差別的な表現と捉えられる可能性があるため、「生活圏」等の表現に修正したほうがよいのではないか。	人家が集まっているところという意味合いで「集落」としています。また、都市計画マスタープランの区別構想でも同様の表現としているため、現行のままとします。
10	15	防災の取り組みについて、「各自治会の防災士の充実を図る」等、育成の取り組みを記載したほうがよいのではないか。	「防災士の確保・育成」は取り組みの1つ目に記載しました「地域防災活動の中心的人材の確保・育成」に含まれます。地域防災は防災士だけではなく、自治会やコミ協の役員のリーダーシップが非常に重要であるため、その方々も含めて各種啓発・研修を展開してまいります。
11	16	中ノ口川直轄管理要望について、毎年の要望事項で済ませず、現管理者である新潟県に実現可能性について、目途がつかどうかを確認して記載したほうがよい。	県では、国に対し水系一貫となった総合的な治水対策の推進を求めていることから、「信濃川と同様に中ノ口川の国による直轄管理」の部分を「中ノ口川を信濃川と一体のものとして捉え、水系一貫となった治水対策を推進することによる流域全体の治水安全度の向上」に修正します。
12	16	大通川の100分の1対策を働きかけることを加える必要がある。	個別の河川名を表示しないことにより、あらゆる河川に対応できるように、河川管理者に「河川機能の確保」や「機能強化を働きかける」という文言にしているため、現行のままとします。
13	17	消防団に関する記載がないため、「消防署や自主防災組織との連携」を「消防署や消防団、自主防災組織との連携」としてはどうか。	消防団は消防署の指揮下にあるため「消防署」に含まれております。
14	18	コロナ以前までは、中ノ口川右岸堤防のごみ拾いを実施していたが(河川愛護月間のときであったと記憶している)、取り組みの具体例は記載しないのか。	河川のクリーン作戦は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、令和2年度以降は中止しています。河川環境保全に対する具体的な取り組みとして、公共用水域への不法投棄防止のための啓発活動などについて実施計画の中で記載していきます。
15	20	上記について、改善対策に区をあげて取り組むべきと思うが、若い世代からの周知・啓発で改善できるとは思えない。目標数値を示して取り組むべきと思うがいかがか。	国や県、市全体で掲げる目標数値を参考にしながら、実施計画の中での設定を検討していきます。
16	20	日本より喫煙率が高くても、日本と比較して癌患者が減少している国が多くある。病気の原因が本当に喫煙や飲酒なのか、海外のデータも含めて慎重に分析した上で周知啓発活動に取り組んでほしい。	がん対策については、国が、がん対策基本法に基づき、がん対策推進基本計画の中で、喫煙や飲酒に関する方針や取り組みを定めていますので、区としても国の方針に基づいて取り組んでいきます。

番号	ページ	意見	回答
17	20	「南区は8区中、喫煙者、毎日飲酒する人が最も多く、運動習慣がある人が最も少ない」とあるが、なぜ8区の中で南区だけこれほどまでに顕著な生活習慣となっているか、分析結果を知りたい。	この結果は、国民健康保険に加入している方が特定健診を受診した際に記入していただく「質問票」の結果をまとめたものです。詳細については分析できていませんが以下のように考えております。 ・喫煙については、屋外や自家用車内など周囲を気にすることなくタバコが吸える環境にあるのではないかと。 ・飲酒については、農作業後や会合などで集まる機会に飲酒する人が多いのではないかと。 ・運動習慣については、移動手段が自家用車中心になり歩く機会が少ない。また、農作業で体を動かしており、「別途、運動する」という意識を持つことが少ないのではないかと。
18	21	「8050」や「ダブルケア」などの専門用語については解説が必要。P25の「フレイル」、P32の「デマンド交通」も同様。	専門用語については今後、他用語と併せて巻末に注釈を追加します。
19	31	「学・社・民の融合」→「学・社・民の協働」がよいのではないかと。	この文言は新潟市教育ビジョンに示されているものです。学校・家庭・地域・行政・社会教育機関・地域の諸団体・企業がそれぞれの役割を果たし一体となって推進することが、新潟市が目指す、生涯を通じて学び育つ新潟市民の姿を実現するために必要であるという姿勢を示すものです。
20	23	特定健診受診率を向上させるための受診勧奨に区を挙げて取り組む必要があると思うが、記載されているような対策で向上するとは思えない。目標数値を示して取り組むべきと思うがいかがか。	新潟市全体では特定健診受診率60%(R5年度)を目標にしています。南区としてもこの目標に向けて取り組んでいきます。
21	26	体育施設の入館者数、スポーツ団体数が減少傾向にある現状は残念である。新型コロナウイルス以外にも要因はあると思うので、なぜ減少傾向にあるか分析の上、対策を強化すべきではないかと。	スポーツ団体数については、少子高齢化に伴い、加入人数が徐々に減少しているため、団体を維持することが困難な状況となっております。今後は市全体でスポーツの素晴らしさを更にPRし、団体の維持や発展に繋がる施策などを検討していきます。スポーツ施設の入館者数については、近年のコロナの影響で休館措置をした影響などが考えられますが、令和4年度以降休館措置のない年を重ねながら、検証していく必要があります。
22	26	体育施設は入館者数が表で示され、実態を知ることができたが、生涯学習についても同様の傾向が懸念される。学習館や図書館、公民館等も利用者数を表示してほしい。	生涯学習施設の利用実績につきましては、記載されている現状や課題、取り組みと関連性が低いと判断し、掲載しておりません。
23	26	公共施設の統廃合が検討されている中、生涯スポーツ、生涯学習、コミュニティ施設等の利用者数を利用率等も紹介する中で、利用促進を促すべきではないかと。	施設の利用促進については、利用者数や開催事業などをホームページにおいて掲載し広く周知しております。利用率が低い施設については、施設ごとにその原因究明と利用促進の取り組みが必用と考えます。

番号	ページ	意見	回答
24	30	女性の社会参加や女性委員の登用率の低さも南区の傾向である。コミュニティ協議会や防災組織への女性参加を促進する文言が必要ではないか。	「協働」の5つ目の●、「区自治協議会と協働し、女性や若い世代の方など～、の意見を取り入れ」には、女性や若い世代の方から自治協議会などさまざまな会へ参加していただくことも想定しています。この基本方針に基づき、実施計画の中で具体的な取り組みを検討していきたいと考えております。
25	32	計画期間最終年度の令和12年は、団塊世代は80歳超となり、南区最大の課題ともいえる公共交通の利便性向上、自家用車の依存脱却が急務と言える。対策を今から考え取り組んでいかなければ、より一層人口減少に拍車がかかるのではないか。	区の公共交通の利用者が低迷する中、少なくとも現状と同等のサービスを維持できるよう努めていきたいと考えております。そのための方針を素案に記載させていただきましたが、具体的な取り組みについては、実施計画でその時代に合った新たな視点を取り入れながら、お示しできるよう検討していきたいと考えております。
26	33	デマンド交通(乗合タクシー)について記載したほうがよいのではないか。	デマンド交通については、公共交通の取り組みに盛り込んでおります。
27	33	公共交通の取り組みの中に、小林コミ協で始めた地域団体による活動支援を入れることはできないか。	区の公共交通の取り組みとしては、現状と同等のサービス維持と、公共交通を地域で支えていくという意識づくりや利用啓発に取り組むことが重要と考えております。 公共交通を補完する支え合いによる移動支援と持続可能な公共交通のあり方については、今後も検討が必要と考えております。
28	34	もぐり橋の解消については、個別橋りょう名(大郷橋、庄瀬橋)を入れたほうが、強力になるのではないか。	もぐり橋については、現在事業中の小須戸橋をイメージしています。もぐり橋の個別橋りょう名は、現状と課題の中で、列挙します。
29	35	空き店舗活用や創業の動きは若干見受けられるものの、現状はその何倍もの店舗が閉店している現状がある。商店街の8年後のあるべき姿を示し、取り組む必要があると思う。	これからの商店街には、高齢者支援や子どもの見守り、地域のふれあいの場など、従来とは異なる新たな役割が求められると考えております。 新規出店や空き家の活用も含め、地域や事業実施者の実情に合わせて支援してまいります。
30	36	<農商工連携の推進>について、白南地域に道の駅の設置を図り、県内外の方から南区の多様な産物を知ってもらう旨記載したほうがよい。	道の駅の具体的な設置の動きはありませんが、南区の物産、農産品等を県内外の方により認知いただけるよう、引き続きPR、情報発信に努めてまいります。

番号	ページ	意見	回答
31	37,38	地産地消(南区の農産物を南区で消費する)を行い、「儲かる農業」の趣旨が必要と考えます。	本市の総合計画(素案)にも謳われているとおり、「儲かる農業」は持続可能な農業を実現するため、本市が目指しているものです。 区ビジョン素案には「儲かる農業」というフレーズ自体は使用しておりませんが、それを実現するためには何が必要かを踏まえ、37ページの現状と課題で販売促進や複合経営の必要性を説き、38ページの2つの取り組みにより産地化、ブランド化を図り持続可能な農業の確立を目指しております。 なお、生産者目線で考えるときに、生産者は流通から販売まで関わることは難しく、あくまで集荷業者が流通ルートを開拓し、販売していくものと考えています。なお、販売まで行う体力のある生産者は直売所やスーパーの直売コーナーに出荷し地産地消の取り組みを行っています。
32	38	「有機資源は有効活用することが望まれます」とあるが、「有効活用を推進していく」の方が適切ではないか。	該当ページは「現状と課題」を挙げているものですので、「望まれます」と記載しておりますが、それに対する取り組みには有効活用する旨を記載しております。
33	38	「8年後には果樹の出荷量の県内1位」のような目標を設定してはどうか。	目標の設定は重要と考えています。個別具体的な目標は実施計画で設定していきたいと考えます。
34	38	農産物のブランド化及びPRは新潟市、新潟県も同様の問題を抱えていると思う。市、県と連携しながら、「米だけ」の新潟のイメージを変えていく必要があると思う。	ご指摘の通り、新潟市及び新潟県と連携しPRする仕組み作りが重要と考えています。区ビジョンでは「特産物の産地化・ブランド化の促進」として記載しており、PRの取り組みをしっかりと行います。なお園芸作物に関しては、全農が事務局となり、「新潟園芸作物宣伝会」においてTV広告や県外PRを行っています。
35	40	物産展への参加は誘客への関係づくりと捉え、南区に実際に人が来るようにPRしていくことが重要であると思う。	ご指摘のようなPRに努めてまいります。
36	40	PR方法について、首都圏在住の南区出身者からの発信など、多様な情報発信が有効だと思う。	首都圏でのサポーターズパーティーやメールマガジン、物産展などの機会を活用し、首都圏での南区ファン獲得に努めます。
37	40	凧合戦をはじめ、PR不足かつPRの方向性自体も修正が必要であると思う。80mの川をはさんで綱を切れるまで引き合う凧合戦は、日本有数の奇祭であると思う。	ライブ配信や海外との交流などにより、より広いターゲットに向けてPRしていきます。
38	43	角兵衛獅子は大道芸の守り神と言っても差し支えないストーリーを持っている。日本の大道芸の守り神として、世界を目指すパフォーマーの聖地になる可能性もあると思う。	角兵衛獅子保存会と協働で角兵衛獅子の発展とPRに取り組んでまいります。

番号	ページ	意見	回答
39	—	文化財巡り観光ツアーの実施、市老連へのPR、観光タクシーの検討などの取り組みを実施する。	文化財を始めとしたツアー造成について旅行社に働きかけるなど、ご意見を参考にさせていただきます。
40	—	曾我・平澤記念館の建築物を工業高校建築科へPR、笹川邸での郷土芸能祭などの取り組みを実施する。	曾我・平澤記念館は香山壽夫・環境造形研究所が設計しており、平成10年に第6回公共建築賞優秀賞を受賞した優れた建築物です。そのことを建築系の高校や大学はじめ、内外に広くPRしていきたいと考えております。
41	—	出会いの場づくり事業を笹川邸で実施することで、若者へ笹川邸をPRする。	区自治協議会で実施している「出会いの場づくり事業」を旧笹川家住宅で実施することについて検討します。区自治協議会との協働及び旧笹川家住宅の魅力発信については、素案に盛り込んでおります。
42	—	具体的にどうするのが記載されていない。	区ビジョンまちづくり計画は、取り組みの方向性を示すものですので、具体的な取り組みは掲載しておりません。今後、実施計画において具体的な取り組みを検討してまいります。
43	—	農業の分野において、外部の人間を受け入れる態勢が不十分なため、それを構築するための人材・組織育成が必要ではないか。	ご指摘の通り多様な人材を受け入れる仕組み作りが重要と考えています。本区ビジョンでは取り組みとして「多様な担い手の育成」と記載しており、担い手確保の取り組みをしっかりと行います。
44	—	空き家への移住や他地区との観光連携などの取り組みの受け皿となる組織を、行政と民間が連携して育成していくことが必要ではないか。	現在、にいがた南区創生会議と連携しながら、ご指摘のような取り組みについて協議を行っておりますが、継続して取り組んでまいります。
45	—	技術の発展などの未来を見据えた項目が少ないので、まちづくりに携わる人に新たな視点を与える事業(研修会等)も必要なのではないか。	技術は発展を続けており、これまでとは異なる切り口でまちづくりを進めていくことも重要であると考えております。2年ごとに作成する実施計画において、その時々々の社会状況を捉えながら、新たなまちづくりにつながる取り組みを進めていきたいと考えております。